



# スクールソーシャルワーカーだより

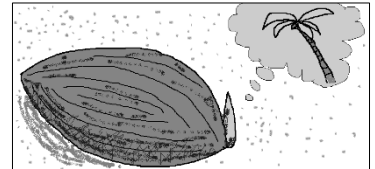
こと ほりかわしげとし

48

## 思いやる の巻 ☆

先に募集のあった、北方領土を考える作文で優秀賞に加唐中1年生Aさんが選ばれ、さらに全国ベスト10に選ばれている。

Aさんの曾祖父は沖縄の出身。仏印で敗戦を迎えるが、焦土と化し、占領されている沖縄への帰島を断念。戦友の故郷、加唐に身を寄せる。Aさんは「北方領土の住民にとって、島はふるさと。75年前、曾祖父が故郷に戻れなかったのと同じ思いを強い方がいいのか」と考えている。以下はわたしの感想である。



### ☆

思いやりの心とは、このような考えを持つ事ではないか。自分の外に心を置いて、自分と相手を同時に眺める。自然にそう出来るのが思いやりではないだろうか。

相手の事だけを思うのは、「あこがれ」だろう。反対に、自分の事だけを考えるのが「わがまま」。相手と自分と両方に目を向け、両方の為を考える、それが思いやりではないか。

### ☆☆

十年前、東北地方を大きな地震が襲った。その後の混乱の中、テレビで金子みすゞさんの「こだまでしょうか、いいえ、誰でも」と言う詩が流れた。自分が投げかけた言葉と同じ言葉が、相手からも戻って来ると確信していたに違いない、みすゞさんの心である。そのみすゞさんに「私と小鳥と鈴と」の詩があり中に「みんな違ってみんな良い」がある。

違いは、比べなければ生まれない。比べるためには、みんなと一緒に、同じことに取り組む必要がある、学校のように。

「何の為に学校に行く必要があるのか」、学校に行きたくなかった人が言う。そのおとなを真似て言うその子どもがいる。わたしの答えは「自分をもっと良く知るため」である。

こう言うと、もしかしたら「自分を知って何になる」と考える人がいるかもしれない。もし、その反論を受けたなら、わたしはその反論には応えないかも知れない。わたしには、そのようなところを持たないから。

思いやる。こころを配る、気づかいをするために